

京都府図書館等連絡協議会実務研修会（南部会場）概要

テーマ：『図書館とSNS』

講師：吉田 竜太郎 氏

演題：「田原市図書館におけるSNS活用の実際について」

会場：木津川市山城総合文化センター アスピア山城

日時：平成30年11月28日（水）14時～16時

参加者数：27名

概要：ツイッターやフェイスブック等のSNSを活用する図書館が増えてきた昨今、府内でも情報発信に使えないかと関心が高まっている。今年度の南部研修では、先進的な実践を進める愛知県田原市の田原市図書館から、職員である吉田竜太郎氏を迎え、実際の効果や問題点、運用等について知識を深める機会とした。

SNSの利点は一方的な情報発信だけでなく互いに発信し合える双方向性にあり、田原市図書館では運用方針を策定し、フォローや返信を随時行う他、業務に直接関係のない個人の日常や感想等も投稿することとした。その結果、ツイッターでは事業の告知だけでなく「男子職員アイス早食い大会」や「市のゆるキャラとのしりとり対決」等が展開され、国立国会図書館の情報ポータルサイト「カレントアウェアネス」でも紹介されて注目された。

ここでは単なる広報誌的な企画だけでなく、柔軟な面白さ、親しみやすさや意外性を盛り込む事で注目され、「記憶に残って読んでもらえるアカウント」を目指すという明確な目的が隠されている。

こういった姿勢を作るにあたって参考とされたのが、前述したカレントアウェアネスの2013年9月の記事「あなたの図書館のTwitterをレベルアップするための10のルール」で、

- 1 自館についてツイートするのは4回に1回、あとは個人の日常や市内のニュース、近隣図書館のツイートをリツイートする等
- 2 ツイートを分析し、ユーザーの反応を見る。
- 3 大事な事は4回ツイートする。ユーザーが見るタイミングはまちまちなので、繰り返し投稿する。
- 4 質問する。発信だけでなく意見を募集する等により双方向性を活かす。

以上の4点が実践されている。

多くの住民にとって図書館のことは他人事であるが、SNSでコミュニケーションを続ける事によって自分の事となり図書館ファンが生まれる。今後、中高生や壮年期の男性等、図書館の利用が少ない年代に働きかける手段として、広がる可能性を感じさせた。